

山崎製パン総合クリエイションセンター

バッハゆかりの18世紀中部ドイツ
カスパーリーニ様式オルガン

パイプオルガン特別リサイタル

II

クシシュトフ・ウルバニアク

カスパーリーニ・オルガン、その多彩なる世界

プログラム

J.S.バッハ：ピエス・ドルゲ BWV 572
C.P.E.バッハ：ソナタト短調 Wq70/6 H87
F.C.モールハイム：《我らの神は堅き磐》《トリオ イ長調》
J.S.バッハ：《主なる神、われらと共にいまさずば》 BWV 1128
F.C.モールハイム：トリオト短調、《尊き神の続べしらすまにまつろい》
D.M.グローナウ：《主はわがまことの牧者》
J.S.バッハ：《音楽の捧げもの》 BWV 1079より「3声のリチェルカーレ」
F.メンデルスゾーン：オルガン・ソナタ ハ短調 Op.65 Nr.2
J.S.バッハ：トッカータ ハ長調 BWV 566a

11.21 土 19:00開演(18:15開場) 横田宗隆によるプレトーク(18:30~18:50)
山崎製パン総合クリエイションセンター 飯島藤十郎社主記念LLCホール
全自由席 一般：4,000円/U25：2,000円 チケット予約：チケットぴあ、イープラス

主催：オフィス山根 協力：ヤマザキ・オルガン委員会 後援：(一社)日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会
お問合せ：オフィス山根 contact@officeyamane.net ※未就学児の入場は出来ません。 ※プログラムは予告なく変更になる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

チケット発売！
7月11日 国 午前10時～



山崎製パン総合クリエイションセンター

バッハゆかりの18世紀中部ドイツ
カスパーリーニ様式オルガン

パイプオルガン特別リサイタル

I

ヴォルフガング・ツェラー

17世紀から現代へ、
オルガン芸術の華麗なる潮流

プ D.ブクステフーデ：トッカータ ヘ長調 BuxWV 156
ロ J.S.バッハ：前奏曲 ニ短調 BWV 877.1、フーガ ニ短調 BWV 853.2
グ H.シャイデマン：カンツォーナト長調 WV 74
ラ P.ブルーナ：第1旋法による、右手と中声部の2つの高声部のためのティエント
ム J.S.バッハ：パルティータ《喜び迎えん、慈しみ深きイエスよ》 BWV 768
G.ムッフアト：《オルガニストの練習帳》より トッカータ 第10番
J.ブラームス：インテルメッツォ Op.116-4
J.S.バッハ：ソナタ ニ短調 BWV 527
J.アラン：ファンタジー 第2番 JA 117
J.S.バッハ：トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540

11.6 金 19:00開演(18:15開場) 横田宗隆によるプレトーク(18:30~18:50)
山崎製パン総合クリエイションセンター 飯島藤十郎社主記念LLCホール
全自由席 一般：4,000円/U25：2,000円 チケット予約：チケットぴあ、イープラス

主催：オフィス山根 協力：ヤマザキ・オルガン委員会 後援：(一社)日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会
お問合せ：オフィス山根 contact@officeyamane.net ※未就学児の入場は出来ません。 ※プログラムは予告なく変更になる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

チケット発売！
7月11日 国 午前10時～



山崎製パン総合クリエイションセンター

パイプオルガン

製作：横田宗隆オルガン製作研究所
3段手鍵盤+ペダル 50ストップ

このオルガンは、3段手鍵盤とペダル、全50ストップの楽器で、18世紀中期から後期にかけての歴史的様式に忠実に製作されています。音像と外観において範としたのは、1776年にリトアニア・ヴィルニウス市でアダム・ゴットロープ・カスパリーニが手がけた30ストップの楽器です。バルト海沿岸には、J.S.バッハが活躍した中部ドイツの伝統が色濃く伝わり、その様式を典型的に示す、多彩な8フィートのフルー管群、重厚なペダル音などが特徴といえます。さらに、バッハが好んだストップ達～全ての手鍵盤に配置された3度管、Viol di gamba 8'などの弦系ストップ、HWのFagott 16'など～をこのオルガンは備えており、当時のアンサンブルを再現できるような、彼の理想のオルガンを目指したものとなっています。バッハをはじめとする同時代の作品から、ドイツロマン派中期へと移りゆく時代のレパートリーに最適なオルガンであると言えるでしょう。



製作者：横田宗隆

1952年東京生まれ。幼少より初期音楽、とりわけバッハのオルガン音楽と古美術に親しむ。学習院大学卒業後、辻宏、ジョン・プロムパウ両氏のもとで学び、欧米で約10年にわたり北ドイツ・北オランダを含む歴史的オルガン製作技法を研究。アメリカ・カリフォルニア州立大学チコ校では、地域協働による18世紀中部ドイツ様式オルガン製作を実現。スウェーデン・ヨーテボリ大学およびGOArtでは、17世紀北ドイツ様式オルガン研究・復元に従事し、韓国国立芸術大学、イーストマン音楽大学、コーネル大学などの新築・研究プロジェクトにも携わった。2015年帰国後、横田宗隆オルガン製作研究所を設立し、製作・修復と教育活動を続けている。

I Hauptwerk (C-f3)	II Oberwerk (C-f3)	III Brustwerk (C-f3)	Pedal (C-f1)	Ventil
1 Borduna 16'	1 Principal Amalel 8'	1 Principal 4'	1 Principal Bass 16'	I
2 Principal 8'	2 Qvintatena 16'	2 Flaut Major 8'	2 Sub Bass 16'	III
3 Gemshorn 8'	3 Iula 8'	3 Querflöte 8'	3 Violon Bass 16'	I
4 Hohlflaut 8'	4 Viol di gamba 8'	4 Flaut Minor 4'	4 Full Bass 12'	III
5 Qvintatena 8'	5 Unda Maris 8'	5 Nachthorn 4'	5 Octava Bass 8'	I
6 Octava 4'	6 Principal 4'	6 Gedackt Bass 8'	6 Gedackt Bass 8'	III
7 Flaut Travers 4'	7 Spiel Flöt 4'	7 Gemshorn 2'	7 Super Octava Bass 4'	III
8 Qvinta 3'	8 Salicional 4'	8 Tertia 1-3/5'	8 Posaun Bass 16'	II
9 Super Octava 2'	9 Nasad 3'	9 Qvinta 1-1/2'	9 Trompet Bass 8'	II
10 Flasch Flöt 2'	10 Super Octava 2'	10 Cymbel III	10 Cornet Bass 4'	II
11 Tertia 1-3/5'	11 Walt Flöt 2'	11 Hautbois 8'		
12 Mixtura VI	12 Tertia 1-3/5'			
13 Fagott 16'	13 Weitpfeife 1'			
14 Trompet 8'	14 Scharf IV			
	15 Vox Humana 8'			

Couplers : OW/HW, BW/HW, BW/OW, HW/P, OW/P
Sperrventils : HW, OW, BW, Pedal I, II, III
2 Tremulants (slow & fast)
2 Cymbelsterns
Nachtigall

Pitch : a=465 @23°C
Modified "Neithardt small town"
8 bellows (Manuals and Pedal separable)



Wolfgang Zerer ヴォルフガング・ツェラー



1961年バッサウ(ドイツ)生まれ。バッサウ大聖堂オルガニスト、ヴァルター・シュスターの元でオルガンを学び始め、1980年、ウィーン国立音楽大学でオルガンをミヒャエル・ラドウスク、指揮をカール・エスターライヒャー、チェンバロをゴードン・マレイに、加えて教会音楽を学んだ。その後アムステルダムにてトン・コープマンの下でチェンバロを、シュトゥットガルトでルドガー・ローマンの下で教会音楽を修めた。プリュージュ(1982)、インスブルック(1983)など、数々の国際コンクールで優勝している。シュトゥットガルトとウィーン音楽大学で講師を務めた後、1989年ハンプルク音楽演劇大学の教授に就任。加えて1995年からはフローニンゲンのプリンス・クラウド音楽院、2006年から2022年にはバーゼル・スコラ・カントルム(スイス)でも教鞭を取った。

Krzysztof Urbaniak クシシュトフ・ウルバニアク



ブレーメン芸術大学の歴史的オルガン部門、クラカウ音楽大学のオルガン科で教授を務める。オルガンとチェンバロを、シュトゥットガルト国立音楽大学とワルシャワのショパン音楽大学で修めた。ジョゼフ・セラフィン、ルドガー・ローマン、イェルク・ハルベックなどに師事。2012年、クラカウで博士号を取得。アルプ・シュニットガー・オルガンコンクール、ヴィレム・ヘルマンズ・コンクール、第5回ポーランド・オルガンコンクールなどのコンクールで入賞しており、武蔵野市国際、ブクステフーデ国際をはじめ様々な阿国際オルガンコンクールで審査員に招かれている。また、ヨーロッパ諸国、日本、韓国などでコンサートを行っている。レッツのルービンシュタイン・フィルハーモニー・ホール、オルガン学芸員、バスレック・オルガン・フェスティバルの芸術監督、オルケーツのECHO芸術監督など、専門家として、ヨーロッパの数多くのオルガン修復や建造に関わっている。

特別イベント

1 ヴォルフガング・ツェラー オルガン・マスタークラス

バッハと南ヨーロッパ(イタリア系)オルガン文化の関係

11月5日(木) 14:00~18:30

聴講料：日本オルガニスト協会正会員 2,000円 / 一般 3,000円 / 学生 1,500円
受講生：4名 ※通訳あり

2 クシシュトフ・ウルバニアク オルガン・マスタークラス

J.S.バッハ、北ドイツ、19世紀ドイツの音楽

11月20日(金) 14:00~18:30

聴講料：日本オルガニスト協会正会員 2,000円 / 一般 3,000円 / 学生 1,500円
受講生：4名 ※通訳あり

3 クシシュトフ・ウルバニアク 特別講演

「J.S.バッハのサークルと北ヨーロッパ・オルガン文化の間：LLCホールのカスパリーニ様式オルガンの多面的性格」

11月18日(水) 18:00~20:00

聴講料：日本オルガニスト協会正会員 2,000円 / 一般 3,000円 / 学生 500円
講師：クシシュトフ・ウルバニアク ※通訳あり

概要：本特別講演では、LLCホールのカスパリーニ様式オルガンを中心に、J.S.バッハ周辺の音楽と北ヨーロッパ・オルガン文化との関係を探る。カスパリーニ家は中部ドイツの伝統、北ヨーロッパの様式、さらにはイタリア的要素を結びつける存在であり、その楽器は多様な音楽文化の交流を映し出している。楽器の構造や音色、奏法、レパートリーの背景をたどりながら、地域と時代を越えて受け継がれたオルガン文化の多面性と魅力を考察する。

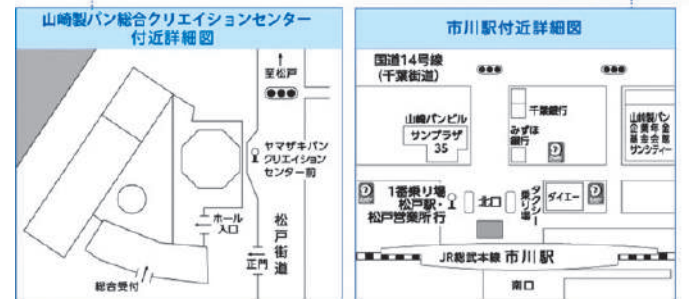
1 2 3 の聴講は予約不要、当日お越し下さい

受講生募集!

ヴォルフガング・ツェラー および クシシュトフ・ウルバニアク
オルガン・マスタークラスの受講を希望の方は
右のQRコードからご応募ください



受講料：日本オルガニスト協会正会員 20,000円 / 一般 30,000円 / 学生 15,000円



会場：山崎製パン総合クリエイションセンター 飯島藤十郎社主記念LLCホール
(千葉県市川市市川3-23-27)

●JR市川駅北口 徒歩約15分(北口ロータリーより千葉街道を左折、「市川広小路」交差点から松戸街道を直進) ●JR市川駅 バス1番乗り場「松戸駅・松戸営業所行」より「ヤマザキパンクリエイションセンター前」下車 ●京成国府台駅 徒歩約5分(改札を出て右に進み、松戸街道を直進) ※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。